

2021 年度  
看護学部卒業生調査報告書

2023 年 5 月 31 日  
統合教育学修センター・教学 IR チーム

# 目次

I.	目的	4
II.	方法	4
	対象者及び回答回収方法	4
	解析方法	4
III.	結果	4
	回答回収状況	4
1.	卒業生の現状	5
	保有免許・就業職種	5
	勤務・居住場所	5
	雇用形態	5
	勤務先	5
	収入(年収)	5
	社会活動	6
	コロナ禍の影響	6
	プライベートの状況	7
	現在最も重点を置いている活動	7
2.	卒業後のキャリア構築方法	8
	これまでの経験した雇用形態・勤務先	8
	大学卒業直後の就業職種・就職先	8
	キャリア構築に当たり相談した相手	10
	専門資格の取得	10
	研究・学術活動	10
	海外在住, 留学の経験	10
3.	卒業生による本学教育カリキュラム評価	11
	キャリア構築に役立った本学のカリキュラム	11
	キャリア構築に役立った正規課程以外および卒後の経験	11
	入学時の入試区分と奨学金制度の利用	12
	大東キャンパスでの生活・体験	12
	大学の役割・後輩の育成に期待すること	12
4.	本学の理念・建学の精神の継承・母校愛の醸成	12
	大学の理念の実践	12
	建学の精神の実践	12

卒業生の教育参画	13
子女の教育	13
5. 卒業後支援に関する要望	14
既存のリソースの認知度(大学ホームページ、女性医療人キャリア形成センターについて)	14
本学キャリアサポートのニーズ調査	14
6. 卒業生の拠点としての大学の意義	14
7. 在学生へのメッセージ	14
8. 本調査へのご意見	14
IV. まとめと今後の展望	15

## I. 目的

近年、大学組織には卒業生の動向・業績を調査し、明らかになった実態や課題をカリキュラムの改善に反映させることが望まれている。

そこで、本学看護学部卒前・卒後教育の質を保証し、女性看護師のキャリア構築を支える卒後サポートを実行するため、「卒業生の現状」、「卒業後のキャリア構築方法」、「卒業生による本学教育カリキュラム評価」、「本学の理念・建学の精神の継承・母校愛の醸成」および「卒業後支援に関する要望」を調査した。

## II. 方法

### 対象者及び回答回収方法

対象は看護学部全卒業生 1093 名であった。2022 年 12 月 23 日に調査の依頼状を郵送し、Google Form で回答を回収した。回答締め切りは 2022 年 2 月 28 日であった。

### 解析方法

回答の構成比を求めた。複数選択式の設定では、極端に選択数が少ない項目があったため、累積相対度数が 90%以上となる項目を「その他」に含めて再集計した。

## III. 結果

### 回答回収状況

313 名から回答が得られ、回収率は 28.6%であった。各回の内訳を示す。

表 1

	回答数	回構成比
1 回	28	8.9%
2 回	6	1.9%
3 回	16	5.1%
4 回	11	3.5%
5 回	8	2.6%
6 回	9	2.9%
7 回	12	3.8%
8 回	12	3.8%
9 回	16	5.1%
10 回	17	5.4%
11 回	16	5.1%
12 回	6	1.9%
13 回	13	4.2%
14 回	12	3.8%
15 回	6	1.9%
16 回	17	5.4%
17 回	11	3.5%
18 回	6	1.9%
19 回	14	4.5%
20 回	16	5.1%
不明	61	19.5%
計	313	100%

## 1. 卒業生の現状

保有免許・就業職種(図1,図2): 免許の種類は、看護師(309名/98.7%)、保健師(227名/72.5%)の順に多く、就業職種も看護師が最も多かった(60.7%)。

勤務・居住場所(表2): ほとんどの卒業生が南関東(東京・神奈川・千葉・埼玉)に居住していた(87.5%)。

雇用形態(図3): 常勤勤務者(経営者、管理者、指導者除く)が多かった(216名/69.0%)。退職者は17名(5.4%)であった。

勤務先(図4): 女子医大・大学病院(81名/25.9%)、その他の病院(37名/11.8%)、臨床研修病院(大学病院除く)(36名/11.5%)の順に多かった。

収入(年収)(図5): 300～500万円(41.5%)、501～700万円(27.9%)の順に多かった。

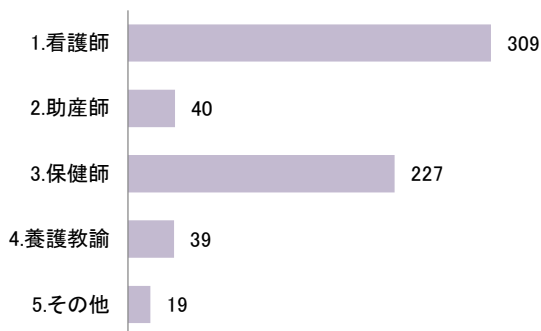


図1 保有免許の種類

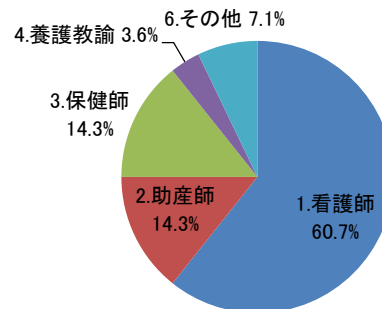


図2 就業職種

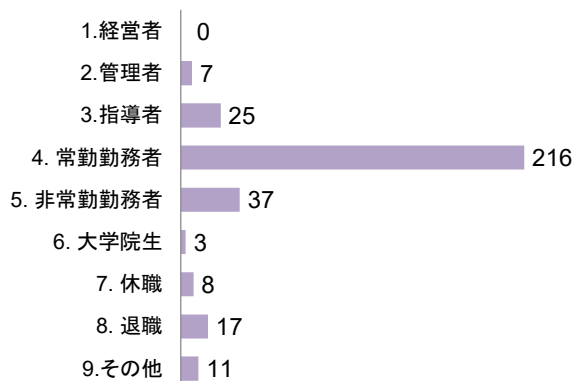


図3 雇用形態

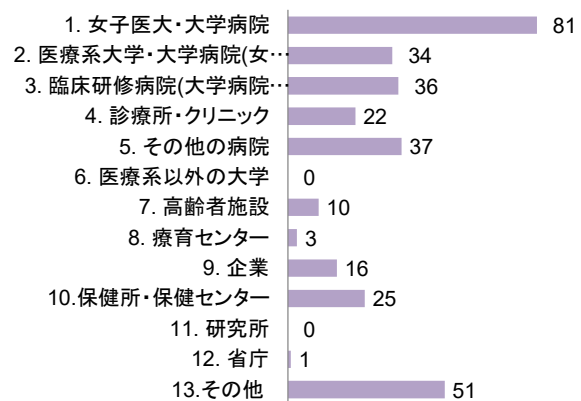


図4 勤務先

表 2 勤務・居住場所

選択肢	内訳
1.北海道	1.3%
2.東北	1.0%
3.関東(茨城・栃木・群馬)	2.6%
4.関東(東京・神奈川・千葉・埼玉)	87.5%
5.中部	6.4%
6.近畿	1.0%
7.中国	0.0%
8.四国	0.0%
9.九州・沖縄	0.3%

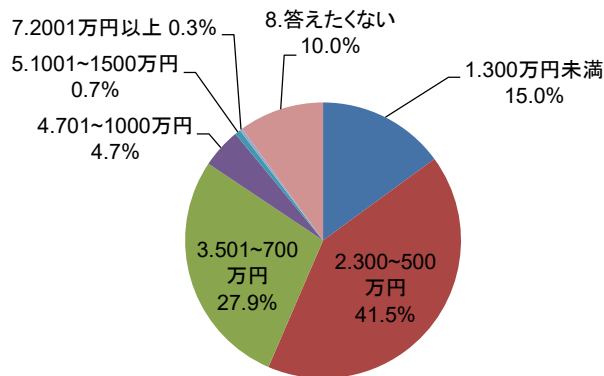


図 5 収入(任意回答)

### 社会活動(図 6,図 7)

看護系同窓会、専門学会、その他団体などでの社会活動に理事・役員、委員として参加している人は 5.8%であった。看護系同窓会理事・役員(6名/1.9%)、専門学会委員会委員(5名/1.6%)の順に多かった。過去に前述の社会活動に参加したことがある卒業生は 4.1%で、その他の団体委員会委員(5名/1.6%)、専門学会委員会委員(4名/1.3%)の順に多かった。

### コロナ禍の影響

影響の有無(図 8): 71.8%が、医療や活動への影響があると回答していた。

コロナ禍とICT導入の関連(図 9,図 10): 普段使っている IT 機器はスマートフォン(275名/87.9%)、パソコン(223名/71.2%)の順に多かった。IT 機器を使って行っている作業はインターネット検索(295名/94.2%)、メール(256名/81.8%)、LINE など(248名/79.2%)の順に多かった。

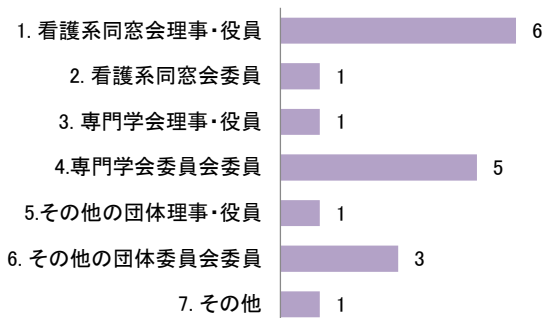


図 6 社会活動(任意回答)

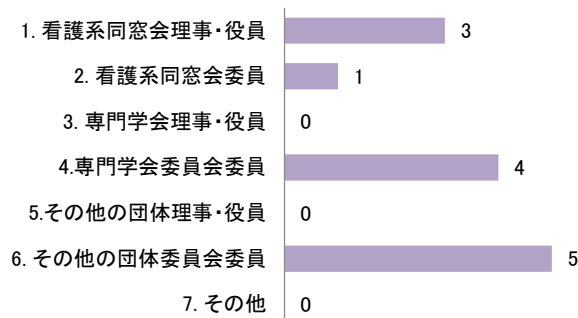


図 7 過去の社会活動(任意回答)

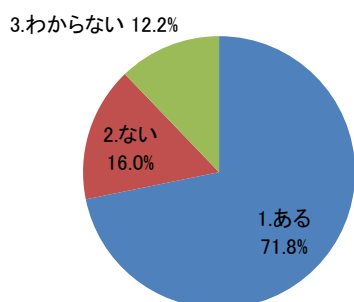


図 8 コロナ禍の影響

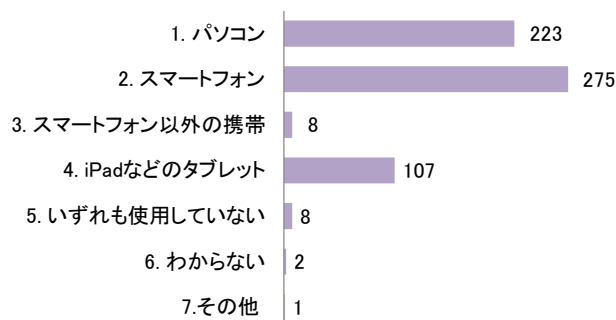


図 9 普段使っている IT 機器

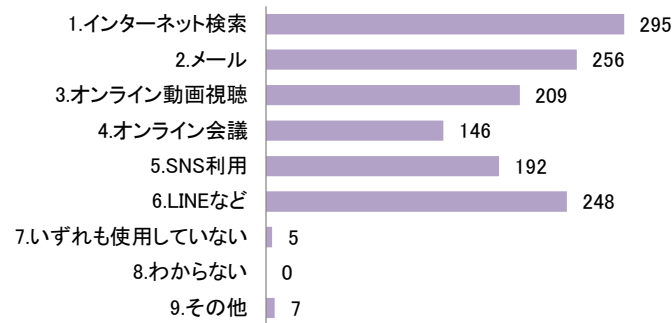


図 10 普段 IT 機器を使って行う作業

### プライベートの状況

子育て支援について(図 11)

該当者は 52.3%で、ほとんどが「ある」と回答していた(94.7%)。

介護支援について(図 12)

該当者は 11.9%で、「ない」が 66.7%であった。

現在最も重点を置いている活動(図 13)

「家族との時間」(48.2%)、「余暇活動」(21.7%)の順に多かった。

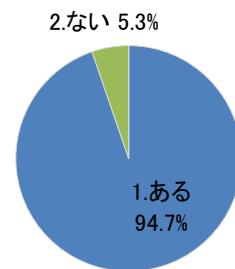


図 11 育児支援(任意回答)

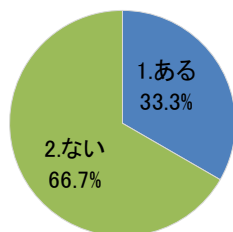


図 12 介護支援(任意回答)

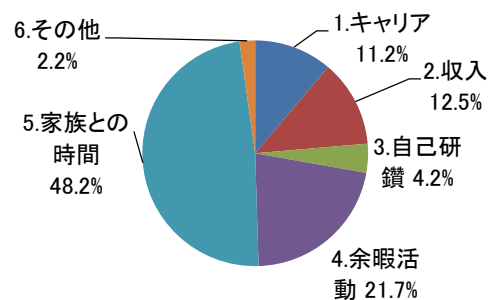


図 13 現在最も重点を置いている活動

## 2. 卒業後のキャリア構築方法

これまでの経験した雇用形態・勤務先 (図 14, 図 15)

雇用形態は、常勤勤務者(経営者、管理者、指導者除く)が最も多く(280名/89.5%)、勤務先は女子医大・大学病院(170名/54.3%)、その他の病院(51名/16.3%)の順に多かった。

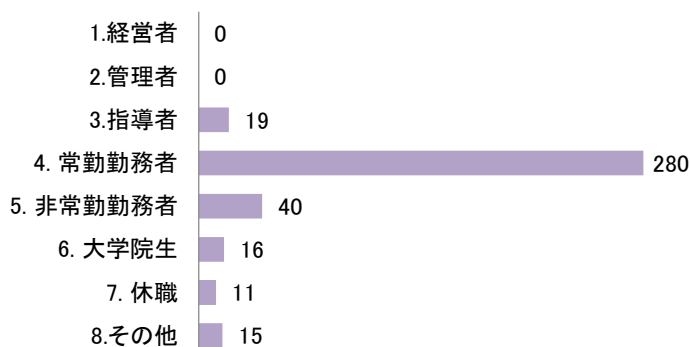


図 14 これまで経験した雇用形態

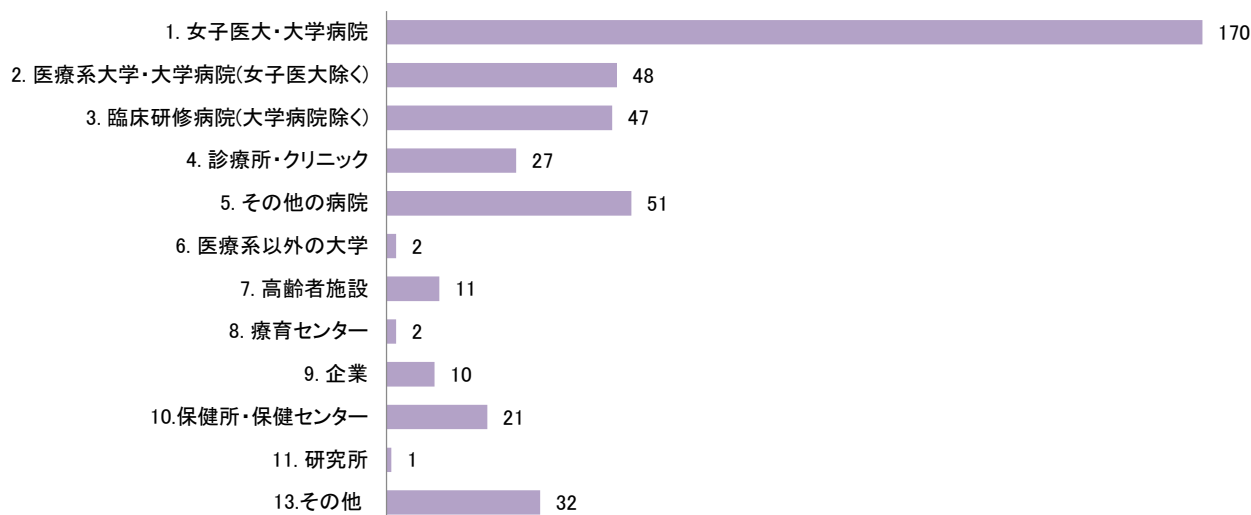


図 15 これまで経験したことのある勤務先

大学卒業直後の就業職種・就職先 (図 16)

看護師として就職した人が 85.3%、就職先は「本学関連病院」が 64.5%であった。

### 本学関連病院を選んだ理由

実習病院だから(18.0%)、病院の規模(11.9%)、希望する診療科がある(9.0%)の順に多かった。

### 本学以外の大学病院を選んだ理由

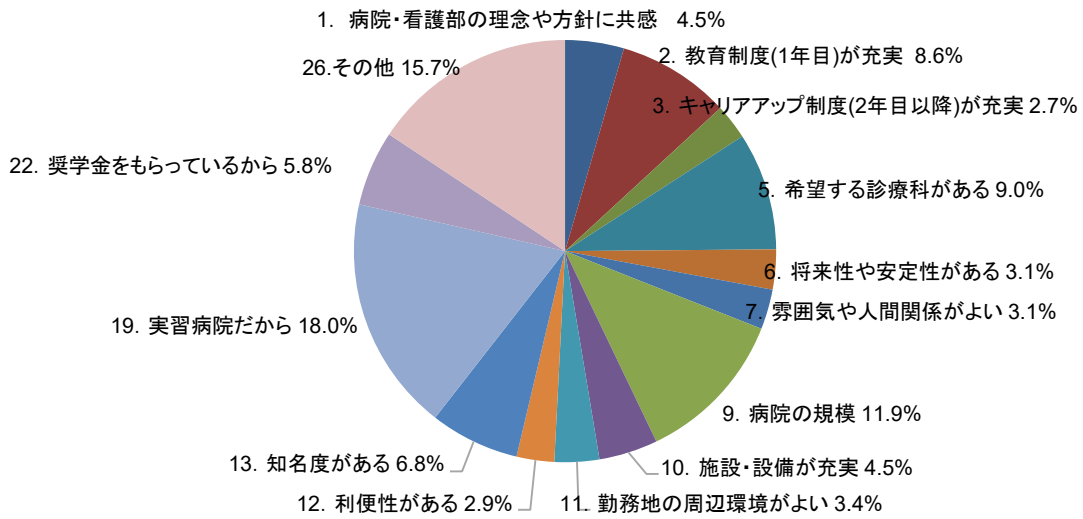
インターンシップに参加(8.3%)、病院の規模、施設・設備が充実、給与ボーナスが高い(7.8%)、教育制度(1年目)が充実、将来性や安定性がある(7.3%)の順に多かった。

### 民間・公的病院を選んだ理由

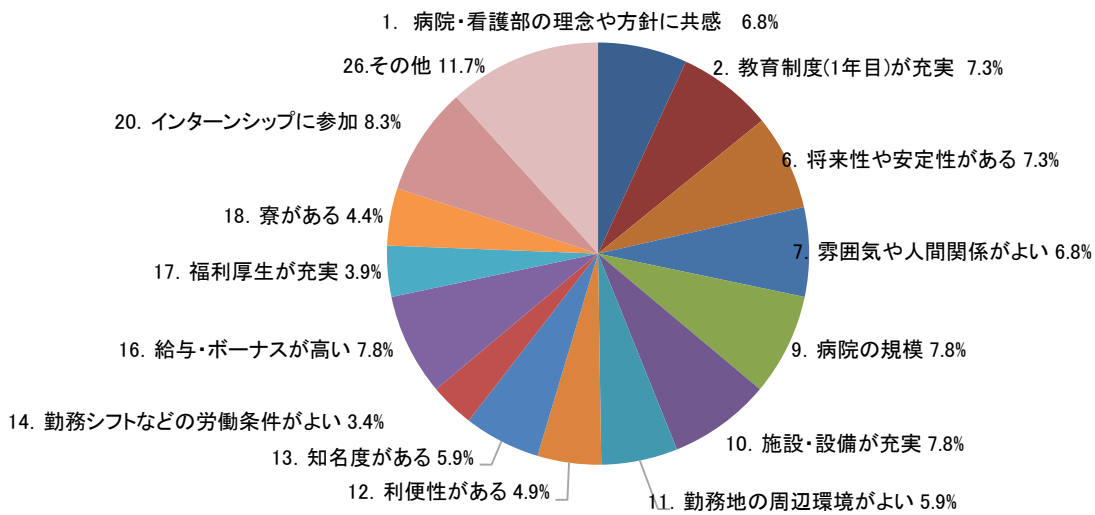
教育制度(1年目)が充実(7.7%)、雰囲気や人間関係がよい、病院の規模(6.9%)、希望する診療科がある、勤務地の周辺環境が良い(6.5%)の順に多かった。



### 1.大学病院(女子医大関連)



### 2.大学病院(女子医大以外)



### 3.大学病院以外の民間・公的病院

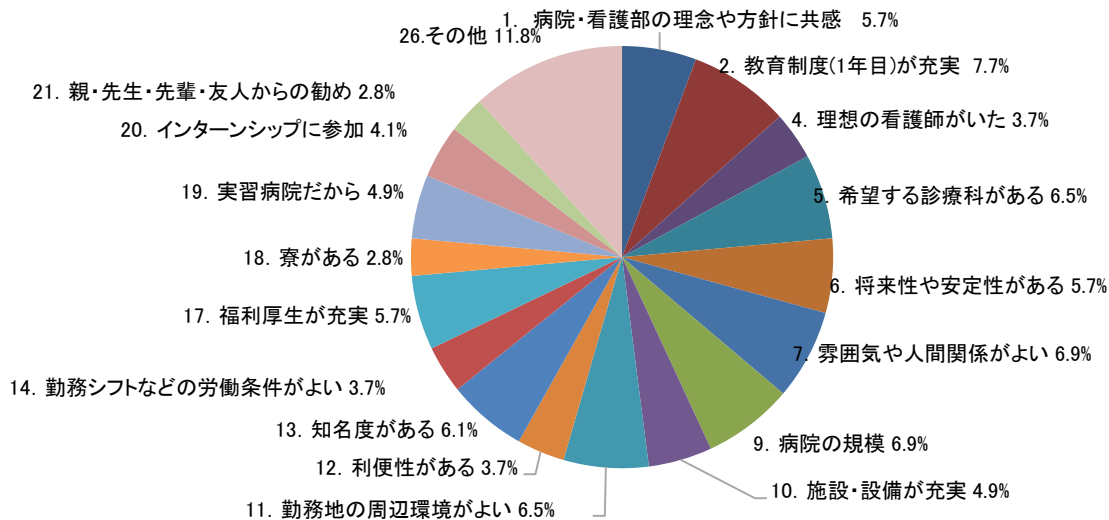


図 16 大学卒業直後の就業職種・就職先

## キャリア構築に当たり相談した相手 (図 17)

キャリアについて相談したことがないと回答した卒業生は 2.1%であった。相談相手は母(244 名/78.0%)、父(134 名/42.8%)の順に多かった。相談相手の数の中央値は 2 であった。

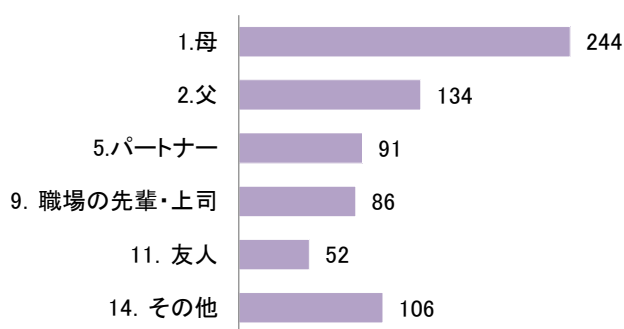


図 17 キャリア構築に当たり相談した相手(任意回答)

## 専門資格の取得

認定看護師、専門看護師、特定看護師(大学院卒)、特定行為研修などの専門資格の取得について、経験がない人が 95.8%、現在も所持している人は 3.8%であった。所持している資格として、専門看護師、認定看護師が挙げられていた。

## 研究・学術活動

最終学位(取得見込み含む) 修士以上は 55 名で修士 16.6%、博士 1.0%であった。修士号・博士号取得者の 66.7%が女子医大で取得していた。

学会参加(図 18, 図 19) ほとんど行かないが 62.5%であった。参加の目的は、「専門領域の最新知識を得るため」(53.1%)が多かった。

## 海外在住, 留学の経験

海外在住の経験者は 20 名で全体の 6.4%であった。平均留学年数は 2.8 年、中央値は 1 年、最も長い人は 13 年留学していた。留学目的は、語学が最も多かった(47.8%)。

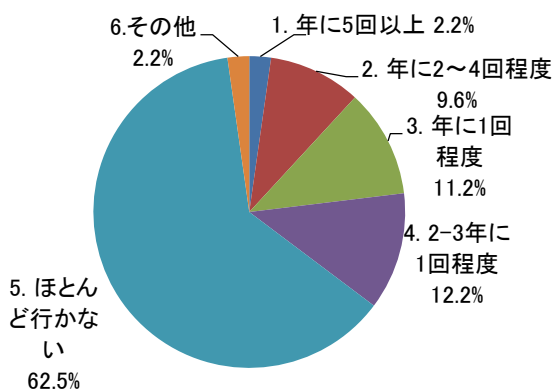


図 18 学会参加の頻度

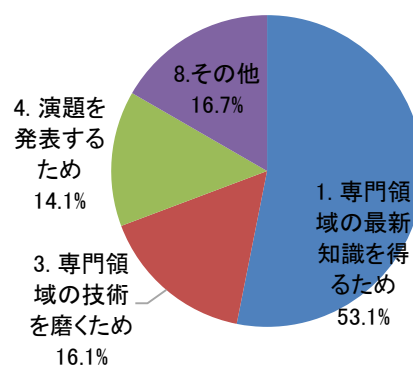


図 19 学会参加の目的(任意回答)

### 3. 卒業生による本学教育カリキュラム評価

キャリア構築に役立った本学のカリキュラム (図 20): カリキュラムの選択肢は、下記の 22 項目で、最も選択されていたカリキュラムは成人看護学実習 8.5%であった。

1.一般教育	2.基礎医学系科目	3.基礎看護学講義	4.基礎看護学実習
5.成人看護学講義	6.成人看護学実習	7.老年看護学講義	8.老年看護学実習
9.小児看護学講義	10.小児看護学実習	11.母性看護学講義	12.母性看護学実習
13.精神看護学講義	14.精神看護学実習	15.地域看護学講義	16.地域看護学実習
17.キャリア発達論	18.国際看護	19.統合実習	20.卒業論文
21.どれも役立っていない	22.その他		

キャリア構築に役立った正規課程以外および卒後の経験 (図 21): 正規課程以外および卒後の経験の選択肢は、下記の 12 項目であった。卒後の看護職としての仕事そのもの (21.7%)、勤務先での研修 (19.7%)、後輩育成(12.1%)の順に多かった。

1.大学での課外活動	2.勤務先での研修
3.勤務先以外での外部研修	4.後輩育成
5.学生の指導	6.勤務先での係などの役割
7.大学院での研究	8.大学院以外での研究
9.社会活動(同窓会、専門学会等)	10.留学
11.卒後の看護職としての仕事そのもの	12.その他

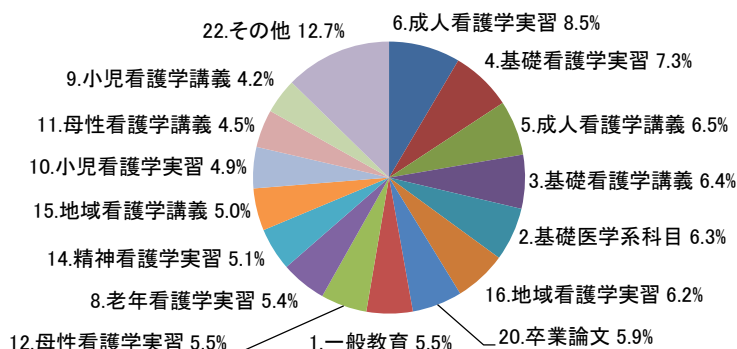


図 20 キャリア構築に役立った本学のカリキュラム

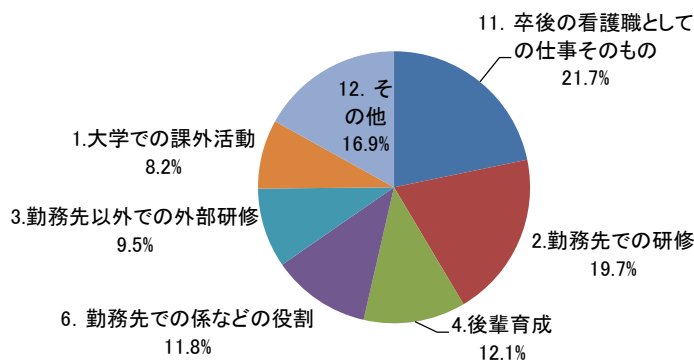


図 21 キャリア構築に役立った正規課程以外および卒後の経験

### 入学時の入試区分と奨学金制度の利用

入試区分は一般入試 207 名、一般推薦 84 名、指定校推薦 16 名であった。奨学金制度の利用者は 45.4%であった。

### 大東キャンパスでの生活・体験 (図 22)

まあまあ役立っている (49.5%)、とても役立っている (28.1%) の順に多かった。

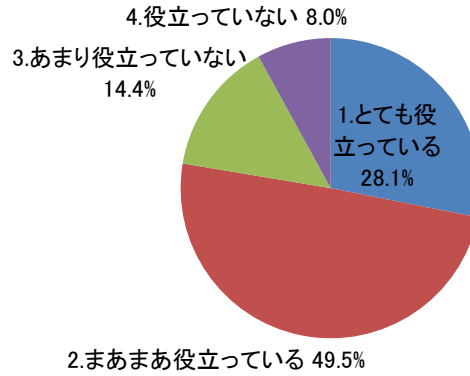


図 22 大東キャンパスでの生活・体験が役に立ったと思うか

### 大学の役割・後輩の育成に期待すること

※多数のご意見を頂き、ありがとうございました。今後の改善への参考とさせていただきます。

## 4. 本学の理念・建学の精神の継承・母校愛の醸成

以下の項目を意識して医療や活動に取り組んでいるか尋ねた。

### 大学の理念の実践

「至誠と愛」の心構え (図 23): この設問では、『「至誠と愛」とはきわめて誠実であること、慈しむ心であり、患者に接するときの根本的な心構えです。吉岡彌生先生の座右の銘であり大学の理念であるこの心構えを忘れずに医療や活動に取り組んでおられますか。』と尋ねている。「時々意識する」(49.0%)、「全く意識したことがない」(27.4%) の順に多かった。

### 建学の精神の実践

看護職・社会人として高い知識・技能・人間性を磨き続けること (図 24): 「頻繁に意識している」(37.8%)、「時々意識する」(36.2%) の順に多かった。

精神的・経済的に自立し社会に貢献する意思 (図 25): 「おおむね持っている」が 60.6%であった。

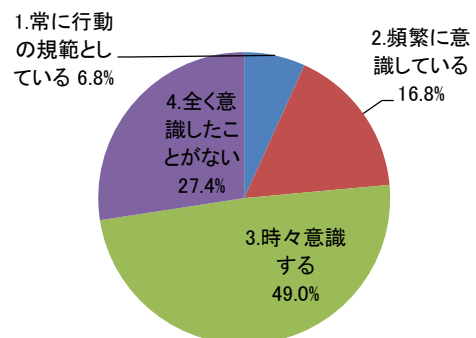


図 23 「至誠と愛」の心構え

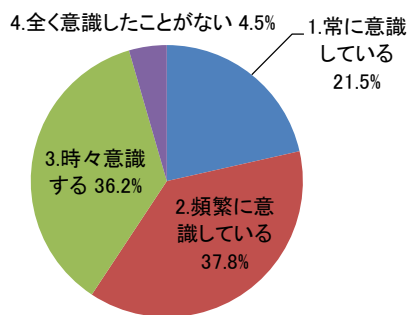


図 24 看護職・社会人として高い知識・技能・人間性を磨き続けること

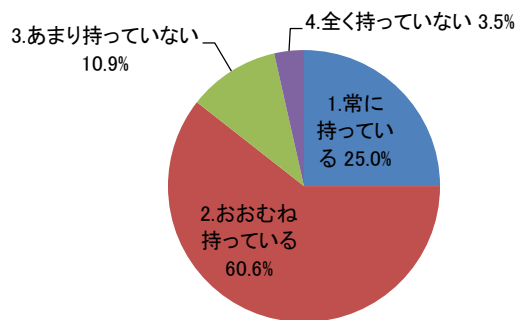


図 25 精神的・経済的に自立し社会に貢献する意思

卒業生の教育参画 (図 26, 図 27) : 本学の学生教育に参加したことが無い人が 74.7%で、学生教育への参加については「時々したいと思う」が 44.9%、「あまりしたいと思わない」が 35.1%を占めていた。

子女の教育 (図 28, 図 29) : 縁者(家族、親戚)に本学出身者がいる人は 4.9%であった。出身者の内訳は、母(46.7%)、姉妹(33.3%)、親戚(20.0%)の順に多かった。自身の縁者が看護職を志した場合に本学への入学を勧めたいかについては、該当者 88.0%のうち、「わからない」が 72.3%と最も多かった。

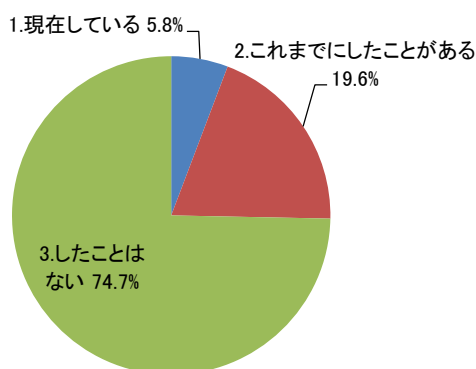


図 26 教育参画の経験

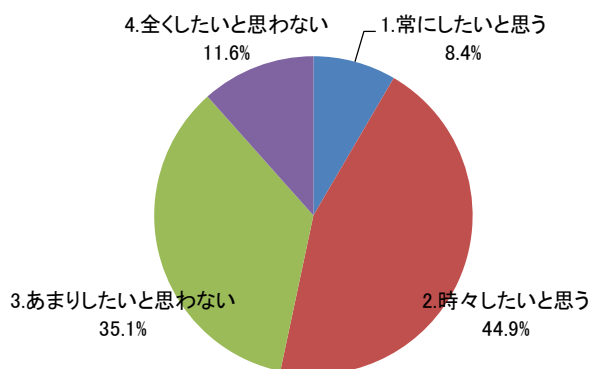


図 27 教育参画への意思(任意回答)

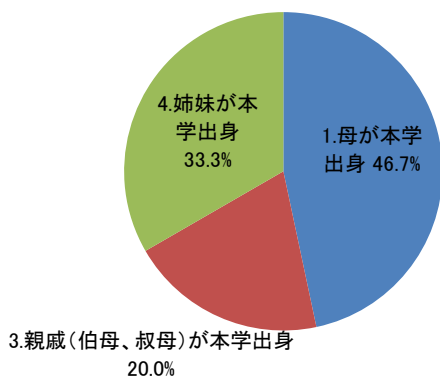


図 28 家族・親族の同窓生(任意回答)

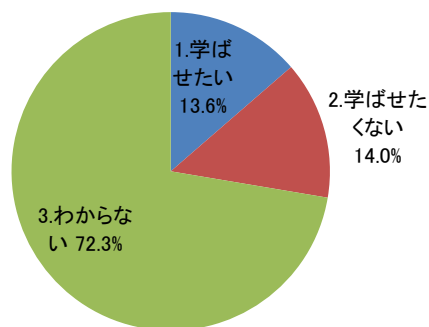


図 29 縁者を本学で学ばせたいか(任意回答)

## 5. 卒業後支援に関する要望

### 既存のリソースの認知度(大学ホームページ、女性医療人キャリア形成センターについて)

大学のホームページを閲覧したことがある人は 60.5%であった(図 30)。女性医療人キャリア形成センターについては活動を知らない人が 84.3%であった。

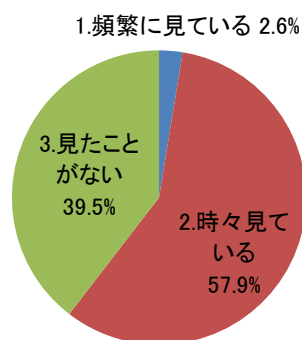


図 30 大学のホームページを閲覧する頻度

### 本学キャリアサポートのニーズ調査

(1)キャリア支援プログラム この設問でのキャリア支援プログラムとは、登録制看護専門領域スキルアップ研修、看護管理者ファーストレベル研究、臨床看護研究支援研修、キャリアカウンセリング、クリニカルコーチ育成研修、師長の変革促進研修などを指している。「ある方が良い」が 54.8%、「あれば活用したい」が 30.4%であった。

(2)専門資格維持のためのサポート 「ある方が良い」が 60.3%、「あれば活用したい」が 31.7%であった。

(3)常勤・非常勤(定期・臨時)の求人・求職を登録できるシステム 「ある方が良い」が 51.0%、「あれば活用したい」が 34.3%であった。

## 6. 卒業生の拠点としての大学の意義

※多数のご意見を頂き、ありがとうございました。今後の改善への参考とさせていただきます。

## 7. 在学生へのメッセージ

※多数のメッセージを頂き、ありがとうございました。在校生へ展開いたします。

## 8. 本調査へのご意見

※多数のご意見を頂き、ありがとうございました。今後の改善への参考とさせていただきます。

## IV.まとめと今後の展望

卒業生の現状(p5)、卒業後のキャリア構築(p14~p16)に関する設問の結果から、次のことが明らかになった。多くの卒業生は看護師として働いており、免許を2種類、特に看護師と保健師の資格を持っている人が多いことが分かった。雇用形態は常勤が半数以上で、勤務先は約25%が本学、兼業している人は少なかった。卒業直後は本学関連病院に就職した人が6割で、実習病院であることを理由に挙げた人が多かった。専門資格取得者は約5%未満、修士以上の学位取得者は2割程度であった。海外留学経験者は約6%で語学留学が多かった。

本学の教育カリキュラム評価の調査項目ではキャリア構築に役立った在学時のカリキュラム、正規課程以外及び卒後の経験を尋ねた(p17)。キャリア構築に役立ったカリキュラムとして、成人看護学実習が最も多く挙げられていたが、他のカリキュラムとの差はわずかで偏りは見られなかった。本学のカリキュラム全体が卒業生から好ましい評価を受けていると考えられる。キャリア構築に役立った正規課程以外および卒後の経験として、学生時代の経験よりも就職先での経験の方が多く挙げられていることも分かった。

建学の精神・理念の継承、母校愛の醸成については課題が散見された。p20で述べたように、建学の精神・理念の継承において、ほとんどの卒業生が建学の精神である「看護職・社会人として高い知識・技能・人間性を磨き続けること」、「精神的・経済的に自立し社会に貢献すること」を意識していたが、理念である「至誠と愛」の心構えについては全く意識したことがない人が約3割いた。「至誠と愛」の心構えが、患者と接するときの根本的な心構えであることを在学中の教育によって継承する必要がある。

p21の学生教育への参加について、参加経験の無い人が74.7%で、そのうち、「常にしたいと思う」、「時々したいと思う」を合わせても半数に満たない結果であった。p14の卒業直後の就職先より、回答者の約60%は卒業直後に本学関連病院に入職しており、実習などで学生を指導する機会があると考えられるが、参加経験の回答と実状に乖離がみられる。実際は学生教育に参加しているが、参加しているという実感がない可能性がある。卒業後、臨床の現場で学生教育に関わっていくことになるという意識を持てるよう、在学中に働きかけが必要だろう。

p16の専門資格の取得に関する結果から、専門資格の取得率が低く、取得経験のない人が9割を占めていることが分かった。取得率を上げることが今後の課題といえるが、次の結果から改善の余地があると考えられる。建学の精神の実践(p20)、卒業後支援に関する要望(p22)の結果から、卒業生の半数以上が看護職・社会人として高い知識・技能・人間性を磨き続けることを意識していること、卒業生を対象とした専門資格維持のサポートのニーズが高く、半数以上が「あるほうが良い」と答えていたことが示された。専門資格取得の意欲はあるが独学では難しい人が多い可能性があり、キャリアサポートの拡充が有益だと考えられる。

## V. 2021 年度実施体制

卒業生調査実施責任者:理事長・岩本絹子、学長・丸義朗、

医学部長・石黒直子、看護学部長・小川久貴子

実施統括:統合教育学修センター(センター長・西井明子)・教学 IR チーム

設問内容担当:医学部 石黒直子、野原理子、

看護学部 小川久貴子、濱田由紀

実施担当:山内かづ代、今中清絵、辻野賢治

データ入力:今中清絵

データ集計:平野万由子

報告書作成:平野万由子、山口俊夫、辻野賢治